

# 地学協働

# 16

2024年1月

Hokkaido community and school collaboration

北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課



バックナンバーはこちらから御覧いただけます。

1

## 北海道地学協働アワード2023

社会教育課 YouTube ライブ で配信します!!



令和6年2月16日(金)  
14:00~15:45

北海道地学協働アワードは、地域と連携・協働体制を構築し、地域課題の解決のために生徒が多様な学習活動に取り組んでいる学校に対して、その功績をたたえるとともに、全道における地学協働のより一層の推進と活性化を図るため、北海道教育委員会教育長が表彰するものです。



←詳しくは、動画で説明していますので、ぜひ御覧ください。

当日の内容

入賞校6校の発表

本審査

入賞校が取組を説明

表彰

グランプリ、準グランプリ、特別賞の決定

全15校から6校が本審査に出場!!当日は、発表から表彰までYouTubeライブでどなたでも視聴可能です

<出場校>

- ▶北海道幌加内高等学校
  - ▶北海道本別高等学校
  - ▶北海道岩見沢農業高等学校
  - ▶北海道浦河高等学校
  - ▶北海道帯広南商業高等学校
  - ▶北海道帯広三条高等学校
  - ▶北海道苫前商業高等学校
  - ▶北海道札幌あいの里高等支援学校
  - ▶北海道美深高等養護学校
  - ▶北海道余市紅志高等学校
  - ▶北海道津別高等学校
  - ▶北海道南茅部高等学校
  - ▶北海道枝幸高等学校
  - ▶北海道倶知安農業高等学校
  - ▶北海道伊達高等養護学校
- (全15校※エントリー順)

全国コミュニティ・スクール研究大会by鳥取県南部町／地域とともにある学校づくり推進フォーラム2023が開催されました!!

令和5年12月15日(金)、鳥取県米子市でコミュニティ・スクールの全国大会が開催されました。今回は、全国から会場参集とオンライン合わせて1,600名を超える参加があり、全国的にもコミュニティ・スクールに対する注目が集まっていることが分かりました。同県南部町における事例発表や、「コミュニティ・スクールのその先に期待すること」など、当事者意識を高く持った行政、学校、地域によるトークセッションが行われ、会場は熱いエネルギーで包まれていました。特に印象的だったことは、地域住民や教員が「学校づくりを通して、地域づくりにつなげる」という意識を高めながら地域学校協働活動を実践しているということでした。また、「学校が地域のプラットフォームとなり、教員や地域住民にとっての居心地の良い場とすることがコミュニティ・スクールの重要な役割」といった話も聞くことができました。



# 2 全道地学協働活動研究大会を開催しました！

昨年11月16日（木）に、全道各地の市町村教育委員会や高等学校等から約150名の参加をいただき、「北海道CLASSプロジェクト」の報告会となる「全道地学協働活動研究大会」を開催しました。

本大会では、研究指定校8校（北海道当別高等学校、北海道白老東高等学校、北海道上富良野高等学校、北海道帯広三条高等学校、北海道夕張高等学校、北海道鶴川高等学校、北海道豊富高等学校、北海道本別高等学校）が、推進校部会と連携校部会に分かれ、各校の3年間の研究成果を発表し、学校関係者・コーディネーター（以下、Co）が現場の実際についてトークセッションを行い、協働体制の構築や先生方と地域住民の意識醸成に向けた具体的な進め方などについて理解を深めました。

## ■推進校部会（当別高校、白老東高校、上富良野高校、帯広三条高校）

### 北海道当別高等学校

#### 発表の要約

1. 当別高校の総探は振り返りを重視している。  
一発表などの成果より、学びのものが重要であるため。  
①方法は①教員との面談  
②生徒のレポートに対するフィードバック
2. 生徒のレポートから、新たな行動目標を作成  
一生徒には目標として、教員、地域には学びの観点として活用
3. 地域との協働には学校側から  
①何を育成するための活動なのかという哲学の共有  
②具体的なお願いを伝えることが必要。



発表：古谷先生

#### 【概要】

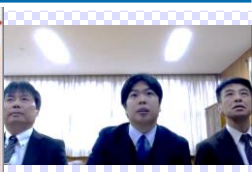
- ・「哲学（生徒の何を育てるためにどんな活動をするか）の共有」
- ・学校・地域・Coが「哲学の共有」をすることで、生徒の能力育成のために各々の長所を活かせる活動を展開
- ・コンソーシアムへの生徒のプレゼン「粘議場（ネバギバ）」（地域に協力を求める場）の実施

### 北海道白老東高等学校

#### 4 課外地域活動の奨励、反応の飛躍的向上

令和3年度	令和4年度	令和5年度
1 11月～12月 21日～29日 219名	1 ①イベント/シンクタンク ②ふくし×まちづくりクラブ ③全道学生文化祭特別観覧 ④ケルシの杜まつり ⑤社会科/探究発表 ⑥白老東健康マラソンスタッフ ⑦1月～2月 レンダー/サケル市 車白老町立陣屋資料館等	1 ①FBレジャースポーツ ②全道入門的研修 ③環境美化・国際交流イベント ④星耀のいな写真展 ⑤手話体験学習(ふじっぴと) ⑥ふくしまちづくりクラブ「もぐり」 ⑦白老東健康マラソンスタッフ ⑧星耀写真展 ⑨グループ&アーツ白老 ⑩白老町立陣屋資料館等
活動人数計 11	活動人数計 43	活動人数計 94

高校生の存在感が地域に浸透



発表：塚原教頭先生（左）佐藤Co（中央）志田先生（右）

#### 【概要】

- ・高校生の存在感が地域に浸透
- ・コンソーシアムによる学習プログラムの実効的バックアップ
- ・年度ごとの重点ミッションの明確化
- ・コーディネーターの役割の継承
- ・生徒のスキルアップ、社会参画、進路実現、地域の活性化

### 北海道上富良野高等学校

#### 3年間の主な取組（生徒の活動）

- ・1年生 地域を知る・探究の基礎を学ぶ  
十勝ジオパーク…地域巡検・フィールド調査  
インタビュー実習
- ・2年生 地域の課題を見つけ探究活動を進める  
グループでの地域課題への探究活動  
青少年体験活動観察制度への応募
- ・3年生 地域の課題に対する提言の発表  
町長への提言発表会  
地域探究町民発表会



発表：美土路教頭先生（左）右は国枝Co

#### 【概要】

- ・ジオパークの素材を活用し「探究」の基礎を学ぶ
- ・地域へのインタビュー・フィールドワーク
- ・町長への提言。町が実現した取組もある
- ・持続可能にするために活動をマニュアル化
- ・国立青少年教育振興機構が実施する表彰制度への応募

### 北海道帯広三条高等学校

#### 成果と課題（成果…○、課題…▲）

- A** 実際の体験的な活動
- S** 学校評議員や同窓会関係者、地域の方から評価する声が届いている。
- 探究活動を機に、自らの進路目標を定める生徒が出てきた
- A** コーディネーターの継続的な確保
- A** 高校全体での組織的な取組
  - ・授業以外の活動と部活動との兼ね合い
  - ・生徒が外へ出ていきやすいシステムの評価と改善



発表：合浦校長先生

#### 【概要】

- ・コーディネーターが連携の「カギ」。外部人材の活用数が大幅増
- ・地域への関心を持ち、主体的な活動が出てきた
- ・校外での探究活動を欠くで後押し
- ・探究をきっかけに進路目標を見つけ、進路実現する生徒がでてきた
- ・今後は、都市型探究活動プログラムの構築を目指していく

## < 推進校部会トークセッション：地学協働活動の実際 >

- ・生徒の主体的意識・行動・活動が現れてきた。自分の生き方や進路を考え、自己有用感、自己肯定感等に好影響を与えている。
- ・生徒が多く経験・人との関わりで成長している。
- ・教員も外部との関わりが当たり前になり、学びになっている。
- ・地域も「関わりたい意識」が高まり、自分事になっている。
- ・Coにより地域とのつながりができた。先生方もつながっていく。
- ・担当教諭に権限が与えられたため、先生方を巻き込めた。
- ・2、3人の熱量のある人材によるチームで進めるのがよい。



- 今後のコーディネート機能の確保
- ・コンソーシアムにCoが残る。
- ・CS委員に担当してもらおう。
- ・外部予算の確保によるCoの配置 等

# ■連携校部会（夕張高校、鷗川高校、豊富高校、本別高校）

## 北海道夕張高等学校

### 4 成果について

#### ○ 学校と地域の連携の仕組みづくり

持続可能な連携体制の構築

#### ➡ 地域コーディネーターの確保・育成

令和4年 夕張市役所 地域振興課職員 夕張高校職員室への派遣（週2～3回）

令和5年 夕張市採用 地域コーディネーター 夕張高校職員室への派遣 常駐



発表：濱村校長先生

### 【概要】

- ・コンソーシアム委員が活動に直接リンク
- ・地域・産業界との連携により、商品開発で地域活性化に寄与
- ・地域の大人との協働で、学びを将来に活かす力を育成
- ・市との危機感の共有で協働を推進
- ・市職員がコーディネーターとして常駐し、地学協働体制を持続

## 北海道鷗川高等学校

### 4 Student (生徒の理解)

#### <「むかわ学」を終えた生徒・教職員の変化>

■事後アンケート、教職員アンケートへの記載事項の分析

■生徒による学校評価

⇒むかわ学の全体評価はまだ行っていないが、学校魅力化アンケートの生徒の意識調査では、自己肯定感が3年前と比べ50%以上向上したことが、間接ではあるが探究活動を行った成果であると考えられる。



発表：右から阿部Co、柳本校長先生、山岸先生、木村先生

### 【概要】

- ・様々な取組により、関係者と先生方の関わりが深まっている
- ・地域の学びで、課題解決力・協働力により進路実現を目指す
- ・外部人材との関わりで生徒の発信力が高まっている
- ・コンソーシアムがハブとなつてつながりづくりができています
- ・コーディネート機能は、協働体制の核

## 北海道豊富高等学校

令和3年度(1年目)

1年生：基礎探究成果報告

2年生：インターンシップ成果報告

3年生：地域探究成果報告



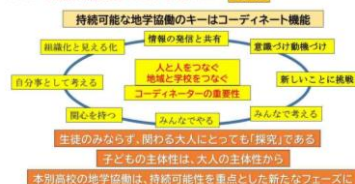
発表：青木教頭先生

### 【概要】

- ・学年ごとに地域に関わる探究を実施
- ・フィールドワークで地域社会を体験
- ・高校生議会を通じて町役場・町議会とのつながりが深まった
- ・コーディネーターがきっかけで地域とのつながりが広がった
- ・持続可能にするために、探究のプログラム化

## 北海道本別高等学校

### 4-2 持続可能なものとするために CLASS



発表：小林教頭先生（左）、石田Co（右）

### 【概要】

- ・大人にとっても「探究」という意識で取り組むことが重要
- ・CSの活動をコンソーシアムに拡大して展開
- ・CLASSプロジェクト圏域交流会等の発表・交流で学びが深化
- ・持続可能な地学協働のキーは「コーディネート機能」
- ・探究に関わった卒業生が役場に就職し、活動を応援

## < 連携校部会トークセッション 地学協働活動の実際 >

- ・探究により生徒が変わってきた。進路実現につながった。
- ・生徒の変容や進路実現は、先生方の意識を変えた。
- ・地域にとっても、学校の存続が重要。目的の共有で協働に。
- ・学校と連携できる専属Coは必要。地域のCoと学校のCoのつながりで関係者が増え、学校のハードルが下がる。
- ・「学校が地域に開く」だけでなく、「学校に地域を開く」ことも重要。地域が学校をどう活用するか。
- ・高校は、卒業後の人材を地域に還元すること。地域課題を我が事にする探究が重要。
- ・生徒のモチベーションには評価される・達成感を味わうことが重要。コンテストへのチャレンジなど。



## ■アンケートから ～ 一部抜粋

- ・コーディネーターと学校の地学協働担当者や分掌組織との連携が大切であると感じました。
- ・小規模自治体における「地域づくり」や「地域活性化」を担う役割として、今後、地域の学校が果たすべき役割は大きいと思います。地域づくりにおいて、コーディネーターの存在は必要不可欠です。各地区で「育てたい子ども像」や「地域的課題」を共有し、地域全体（産官学民）が一体となって子どもの教育に携わることができる環境を整備しなければならないことを痛感いたしました。
- ・どの高校も次年度以降のコーディネーターについて考えているようでした。予算措置をお願いします。

# ○●○子どもの読書活動推進コーナー○●○

社会教育課では、地学協働の推進とともに、子どもの読書活動の推進に関することについても担当しています。今号は、道内の2管内から、学校図書館の好事例を紹介します。

## 【日高管内】 図書委員と司書が協働した取組 (新ひだか町立三石中学校)



### 司書による環境整備の充実

新ひだか町では、司書が町内の小中学校を週に1回ずつ訪問し、学校図書館の整備や授業のサポートを行っています。

三石中学校図書館では、書棚の整理や本の修理、図書委員の支援、本の展示、本探しの支援など、生徒が利用しやすい学校図書館づくりを行っています。

### 生徒が主体となって企画する読み聞かせの会の実施

図書委員が学校の読書活動を活発にするため、昼休みに「読み聞かせの会」を企画し、実施しています。読み聞かせは、図書委員が司書に依頼し、毎週木曜日に行っており、全校生徒の半数ほどが参加して楽しんでいます。



## 【十勝管内】 生徒の学びや活動を支える学校司書 (北海道帯広南商業高等学校)



### 生徒の情報活用能力を育成する授業の補助

帯広南商業高校では、国語科を中心に、1か月で20時間程度、学校図書館を活用する授業を実施しています。国語科の授業において、生徒の端末と学校図書館の書籍の双方を活用して得た情報を比較する活動を通して、生徒の情報活用能力の育成を図っています。学校司書は、生徒に図書館資料を提供するなど、授業の支援を行っています。

### 図書局員の活動を情報発信

学校司書は、学校図書館及び図書局のホームページを開設し、図書局の活動の発信や、読書活動の啓発に取り組んでいます。生徒が作成した本のPOPを活用し、新着図書や季節のおすすめ本コーナーの紹介を行うなど、ホームページを閲覧した生徒や教職員が学校図書館に足を運びたくなるような情報発信を工夫しています。



←帯広南商業高校図書局HP

題字の背景写真は、「北海道公式観光サイト『HOKKAIDO LOVE!』」

(公益社団法人 北海道観光振興機構) のフォトライブラリーから

御提供いただいております。 ● 掲載サイト <https://www.visit-hokkaido.jp/>

